

朝第五一九五號



内閣議案八七號



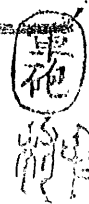
明治廿八年八月廿六日

九月二日

第一號



八月廿四日

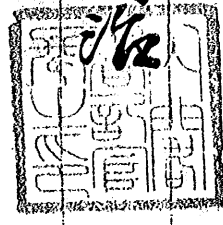


第九二第

別紙ノ通閣議決定相成候條此段  
及御通牒候也

明治廿八年八月十七日

内閣書記官長伊集良弼



陸軍次官児玉源太郎殿

0339

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0340

別紙臺灣事務局總裁具申臺灣島之文  
 武ノ職ヲ本スル者事平定ニ至ルテ外征後  
 軍者トシテ取扱ノ件ヲ審査スルニ日清間ノ  
 平和既ニ回復シ臺灣島ノ受渡完了シタル  
 今日ニ於テハ臺灣島ハ固ヨリ既ニ帝國ノ版  
 圖ニ屬スト難條約批准交換後二年間ハ  
 其ノ土民ハ未タ純然タル帝國ノ臣民ト云フ  
 ことヲ得サルノミナラス數多ク清國ノ殘兵  
 除要ノ地ニ據リ土民ト相合シテ頑固ナル抗  
 敵ヲ爲シ形勢恰モ一敵國ノ如ク今後尚幾  
 多ク戦闘アルコトヲ免レサルハ之而シテ是皆日  
 清戦争ニ伴フ結果ナルヲ以テ事實上之ヲ

外征ト見做<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>後軍者<sup>ノ</sup>外征後軍者ト  
<sup>レ</sup>取扱<sup>ル</sup>敢<sup>テ</sup>不都合<sup>ノ</sup>廉血<sup>之</sup>付具  
申<sup>ノ</sup>通閣議決定相成可然ト認<sup>ム</sup>

0342

台閣一号

別紙臺灣總督稟申臺灣島之文武ノ職ヲ  
奉之者事奉定、至ルマテ外征泛軍者トシテ  
取扱ノ件、稟申ノ通、然ルヘト局議決定  
候條此段及具申候也

明治二十八年七月十日

臺灣事務局長總裁伯爵藤博文  
内閣總理大臣伯爵藤博文殿

官第三四号 (別紙)

日清兩國間ノ平和既ニ回復ニ台湾島ノ受授ハ完了  
セリト雖本島ノ形勢ハ恰モ一敵國ノ如ク清國ノ將率

淡水三貂灣ニ於テ我六ツ財艇ヲシ又金皎蔭蔭其港  
等ニ於テ頑固ナル抗敵ヲ為セリ而シテ南方安平打  
狗等ニ於テ我軍艦ヲ屢砲撃シ又新竹以南ハ尚  
夥多ク殘留清兵充満スルヲ以テ今後幾多ノ戰  
闘アルヲ免レス故ニ名義上ヨリ言ハハ台湾ハ既ニ帝  
國ノ新領土ナリト雖實際ノ狀況ハ外征ニ於ルニ異  
ナルトナシ故ニ本島ニ於テ文武ノ職ヲ奉ムルモノハ  
其年定ニ至ルニテ總テ外征後軍者トシテ諸職  
ノ取扱相成度此段稟申候也

明治二十八年六月十九日

臺灣總督子爵村樺中山資紀

内閣總理大臣伯爵藤博文殿